

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立足立東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任、生活指導部主任）計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長2名、経営企画室長、教務主任（主幹教諭）、生活指導主任（主幹教諭）
進路指導主任（主任教諭）、健康・環境主任（主任養護教諭）計8名
- (4) 協議委員の構成
近隣小学校長、地域警察関係者、地域消防関係者、区就労支援課職員、
近隣自治会長3名、PTA会長、PTA役員OB会長 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和6年6月7日（金）内部委員8名、協議委員8名
 - ①校長挨拶
 - ②自己紹介
 - ③本校の現状と課題
分掌の組織目標と計画（教務部、生活指導部、進路指導部、健康環境部）
 - ④質疑応答
 - 第2回 令和6年11月15日（金）内部委員8名、協議委員6名
 - ①校長挨拶
 - ②本校の現状と学校行事等
感染症の現状と対応、体育祭、文化祭
 - ③学校評価アンケート
・アンケートの項目と回収方法の変更について
 - ④質疑応答
 - 第3回 令和7年2月7日（金）内部委員10名、協議委員7名
 - ①校長挨拶
 - ②組織ごとの最終報告
各学年（1～3年）及び分掌（教務部、生活指導部、進路指導部、健康環境部）の最終報告
 - ③学校評価アンケートについて
・アンケート結果に基づく分析・考察
 - ④質疑応答
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
資料の事前配布により、開催実績なし。

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の項目
令和4年度までの学校評価アンケートは、3年間は質問を固定し経年変化で評価していた。3年間の評価を踏まえ、質問内容と項目数を精選し、評価（回収）はすべてMicrosoft Formsで実施した。
縦軸を、8つの大項目（学校経営、教務、生活指導、進路指導、健康・環境、全体、広報、働き方改革）に分類し、大項目をさらに小項目に分類し、合計で15の小項目を設定した。
 - ①学校経営 : 教育活動の周知
 - ②教務 : 授業、学力向上、SG、体験学習
 - ③生活指導 : 行事、校則、いじめ
 - ④進路指導 : 話し合い、キャリアガイダンス
 - ⑤健康・環境 : 美化、相談
 - ⑥全体 : 学校生活の充実、入学
 - ⑦広報 : 広報活動
 - ⑧働き方改革 : 働き方改革
横軸を、教員・生徒（自己評価）と保護者・地域（学校関係者評価）に分類し、質問項目を、教員・生徒・保護者の質問数を15問とし、地域の5問とした。また地域の評価対象を、学校運営連絡協議会（地域自治会、小学校、足立区など）に加えて、特別専任講師や体験授業の施設長等に拡大した。ただし、

地域は代表者1人に変更したことで、昨年度より依頼数は減った。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：463人	回収：404人	回収率：87.2%
・12月	保護者全員	対象：447人	回収：82人	回収率：18.3%
・12月	地域	対象：120人	回収：33人	回収率：27.5%
・1月	教職員	対象：47人	回収：46人	回収率：97.9%

(3) 評価結果の概要及び分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

①教育活動と学校生活の意識・満足度

《教育活動の周知》約90%の教職員・生徒・保護者が、学校方針を知っているが地域は39%である。エンカレッジスクールとしての教育理念「学び直し」を掲げて地域の中学生に本校の特色をアピールして、ミスマッチの少ない募集活動と教育を行っている。広報活動の地域では、66%が本校の情報（体育祭等の行事や部活動による講演など）を知っているが、本校の教育方針や決まりについて知らない結果となった。学校案内の配布や地域の回覧をとおして、学校経営方針の周知を図る。

《広報活動》89%の教職員に対して、生徒・保護者・地域が約75%である。ホームページやX（旧：Twitter）などから、本校の情報が得られることを周知する。学校行事や部活動、募集活動を含めてホームページからの発信は頻繁である。中学生の8割以上が高校のホームページを閲覧して受験校を選んでいることから引き続き積極的に更新を行う必要がある。

《学校生活の充実》約90%の教職員・生徒・保護者が充実していると回答している。生徒自身が本校のエンカレッジスクールの特色を理解し、望んで入学する生徒が大半であるため、中学生の時にできなかったことを本校で実現しようと充実した高校生活を送ろうとする意欲が高い。引き続き、授業に対する満足度の数値を向上させ、学校生活の充実を図る。

《入学》約86%の生徒・保護者が入学してよかったと回答している。中学校の時より、友達も増えて楽しく過ごしている。入学したくてこの学校に入ったという生徒の声を直接聞く。エンカレッジスクールの特色を理解しているからこそその感想である。引き続き、100%に近づけるよう、授業や部活動の充実を図る。

《総括》①学校活動や連絡を周知・徹底することが重要となる。ホームページ以外にも、保護者の携帯電話等に、配布物や方が一の発災時の対応について、メールやC l a s s iで周知する必要がある。②肖像権の問題はあるが、学校行事の動画配信をも検討する必要がある。中学生に対して全日制普通科のエンカレッジスクールの特色と卒業後の進路実績を周知して募集対策に力を入れていく。③メールやC l a s s iを活用して、防災に対する取組と防災協定などを周知する必要がある。

②授業に対する満足度

《授業》90%以上の教職員と生徒が、授業や教材の工夫に対して、わかりやすいと回答している。1人一台端末を活用して、調べ学習や発表を取り入れた授業を通して、生徒の自発的な学びの意欲を促している。100%になるよう、引き続き、生徒がわかりやすいと実感できるように授業改善に取り組んでいきたい。

《学力向上》80%を超える教職員・生徒・保護者が、役立っていると答えている。他展開のクラス別授業は、生徒によって学びの意識に差が出る場合もあり、習熟度別授業や30分授業を行う意義を理解させる必要と、他展開授業によって確実に生徒の学力向上させる実績が求められる。引き続き、習熟度別授業や30分授業の充実や指導を徹底していきたい。

《スタディガイダンス》80%の生徒と保護者が役立っていると回答している。生活リズムの確立のために実施しているのであれば、現在のまま同じ内容の繰り返しでもよいが、生徒の「学び直し」と学力向上を考えるのであれば、徐々にステップアップし授業の中で「わかった。できた。」という経験を積み重ねることが重要である。基礎力診断テストの結果では脱D3を目標として、マナトレを活用した学力向上策を計画・実施していきたい。

《体験学習》90%を超える教職員・生徒・保護者が、積極的に取り組んでいると回答している。日本の伝統文化等、専門講師の方が丁寧に指導してくださる体験学習であり、生徒達も興味を持って学ぶ一方、一部に生徒の中には通常の座学とは異なり欠席しても構わないと軽視する傾向も伺える。体験学習は、エンカレッジスクールの大きな特徴である。キャリア教育と結びつけた指導をホームページなどで、情報発信で理解推進していきたい。

《総括》生徒がわかる授業と教員の授業力向上について、校内の研修と校外の研修を充実させる必要がある。エンカレッジスクールだからこそ生徒の持てる力を発揮し、希望する進路を実現できるよう組織的に対応していく。

③生活指導に関する意識・満足度

《行事》90%を超える教職員・生徒・保護者・地域が積極的に取り組んでいると考えている。生活指導部が組織的に、委員会やクラスを主体的に動かせ、生徒達が団結力・帰属感を深めながら思い出深い行事となっている。広報活動との数値と連動していることから、広報活動の充実させることが重要である。

《校則》80%を超える教職員・生徒・保護者・地域がきまりを守っている。基本的な生活習慣は確立されており、挨拶や服装、自転車の乗り方等について問題は少ないが、一部で看過できない事案を起こす生徒も存在し、学校全体で見守る必要がある。生徒の自由意見欄では、校則に関わる疑義の意見が多い。校則の徹底と生徒理解を促すことが大切である。

《いじめ》90%を超える教職員・保護者がいじめを許さない取組をしていると回答している。年3回のいじめアンケートを実施し、ささないことであっても、担任や養護教諭、SC、YSWと連携して生徒の気持ちに寄り添い、不安感の解消に努めている。引き続き、生徒アンケートの実施をとおしていじめを許さない取組を実施していく。

《総括》学校行事をとおした広報活動を進める。校則を踏まえた指導について、教員と生徒に周知・共有化する。日頃の声掛けや面談を通じて生徒の気持ちに寄り添いつつ、規則やルールを順守することの意義と大切さを理解させる指導を継続していく。

④進路指導に対する意識・満足度

《話し合い》85%以上の教職員・生徒・保護者が、進路(将来)について話し合っている。1年次から三者面談を行い、早期から生徒自身の希望する進路を明確にし、進路実現に向けて3年間を見通したガイダンス等を組織的に計画・実施している。引き続き、適宜、二者面談や三者面談を実施し、生徒本人の進路意識を熟成させ、家庭と連携した進路決定を進めていく。

《キャリアガイダンス》85%以上の教職員・生徒・保護者が役立っていると回答している。進学や就職に向けてあらゆる選択肢を研究させ、自己の適性に応じた進路に向かえるように週時程に位置付けて学校全体として生徒の進路決定を支援している。引き続き、エンカレッジスクールとしての特色ある取組を継続、更に一層発展させていく。

⑤健康・環境に対する意識・満足度

《美化》教職員・生徒・保護者・地域のすべてにおいて、約70%前後である。開校して49年目を迎えるが大規模改修をしておらず、施設の老朽化は否めない。施設自体は老朽化しているが、校内清掃は行き届いており、生徒達も校舎や施設を大切にしようとする気持ちが強い。学校自体は清潔感があるが、教室によっては空調に課題がある。現在はトイレの様式化工事を行い、環境整備を徹底している。

《相談》教職員が100%に対して、生徒・保護者が約65%の回答であった。本校の二人担任制を活用し、気軽に生徒達が相談できる環境がある。また、週1回教育相談委員会で生徒情報を共有し、担任以外からの声掛けを行い生徒達の変化を察知している。YSWや外部機関と連携を充実させて、相談しやすい学校を目指していく。

《総括》学校評価アンケートや学校見学会のアンケート等の外部アンケートを根拠にして、東京都に対して施設改善の強く要望をしていく。また、学校施設を広く開放することで近隣住民との交流を深める機会を増やすようにする。

⑥その他

《学校は、働き方改革の実現に向けて取り組んでいる》東京都の働き方改革を念頭に、教職員が働しやすい環境を整えていく。また、ライフ・ワーク・バランスの推進を具体的に進める必要がある。本校の実態として頻繁に生活指導に関わる問題が起きるため、保護者との電話連絡や面談のため勤務時間内に業務を終わらせることが難しく、働き方改革の実現とは直結していない状況がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題(学校の自己評価へ反映)

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ①学校生活全般において、生徒、保護者とも学校に対する満足度は高い値である。引き続き、エンカレッジの本質である「生徒を励まし力付け、学び直しの視点に基づくわかりやすい授業」を心がける。
- ②生活指導に関する数値は、年々、数値が上昇している。引き続き、校則の周知を徹底し、数値を維持もしくは向上させる必要がある。

③進路指導に関する数値は、昨年度と同様に良い数値である。また進路決定率も令和4年度から継続して90%以上を維持できている。引き続き、キャリア教育を念頭にした授業の充実に取り組む。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ①外部委員から、formsでの回答は高齢の対象者には難しいのではないかと指摘を受けた。今年度は、配布の仕方にも説明が不足していた。丁寧な説明を行う。
- ②外部委員や学校評価アンケートからも施設改善の要望が多い。学校では可能な限りの対処はしているが、実情は限界である。学校から東京都に強く要望することが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ①スキルアップ推進校の継続を受けて、外部人材を活用した4講座（職場体験、デジタルスキル講座、英検講座、文書作成講座）の推進と充実を図る。
- ②都立学校保護者コミュニケーションシステムを活用し、生徒や保護者と連携を図り、基本的な生活習慣、社会性と規範意識を身に付けさせる。
- ③ユースソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・都立版エリアネットワークを活用し、教育相談の充実を図り、中途転学や退学の減少・防止に努める。

(2) 学習指導

- ①授業参観シートを活用した教員相互の授業参観やOJTを推進し、教員の授業力向上を図る。
- ②習熟度別授業や少人数授業により個に応じた指導の充実を図っていく。
- ③基礎力診断テストによる客観的な数値に基づき、自らの学力を知り、学力を意図的かつ計画的に向上させる方策を検討・計画する。
- ④若手教員や主任教諭を中心としたプロジェクトチームにより、学習指導の自己研鑽を促し、授業力の向上を図る。

(3) 特別活動

- ①新入生歓迎会などで部活動への参加を促進し、部活動加入率の増加と部活動の活性化を図る。
- ②地域のイベントに積極的に参加し、地域社会に密着した学校づくりを推進する。

(4) 生活指導

- ①生徒、保護者にわかりやすく指導方針を伝えるとともに、人権に配慮した指導内容の徹底を図り、学校・家庭・地域、関係機関が連携して生徒の健全な育成を行う。
- ②登下校時の自転車乗車における交通安全指導を徹底し、社会人として交通ルールを守る意識の向上に取り組む。また、人権尊重に基づいたSNSの適切な利用を指導・徹底する。

(5) 進路指導

- ①1年次から「体験学習」、「キャリアガイダンス」や各教科を通じて教科横断的にキャリア教育に取り組むとともに3年次の「人間と社会」等により、3年間を通じて計画的に望ましい職業観・勤労観を育成する
- ②令和6年度から、進路・学習部に名称を変更し、学力向上に向けた具体的な方策を検討し実行する。

(6) 健康・安全

- ①教員研修会を実施し、教育相談能力の向上を図る。
- ②健康講話の充実を図り、健康に対する意識向上を図る。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

7 その他

- ①令和5年度から、スマートフォンを活用したMicrosoft Formsで学校評価アンケートを実施した。回答者の声として、想定よりも簡単に回答できているという声と地域の方に関しては、スマートフォンを読み取るということから困難さを感じている回答者もいるのは確かである。引き続き、令和7年度もMicrosoft Formsを活用した学校評価アンケートを継続するが少し丁寧に説明行為を行いながら理解を求める。
- ②保護者及び地域の回答率が低い。学校運営連絡協議会の際にやはり紙での回答を希望している方が多いとの声があったが、回答方法の説明を付けるなどして、対応すると理解を求めた。また、回答率の向上を図るために、学校評価アンケートを実施しているねらいを明確にし、継続的に学校教育に目を向けてもらえるように広報活動を充実させる。